

ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和
ハーモニー

市民活動課（内線357）

災害時は多様な視点で

災害時に多くの方が安心して支援を受けるためには、男女共同参画の視点が欠かせません。

避難所では、生理用品や授乳スペースの不足、防犯面の不安など、女性特有の課題が見逃されがちです。一方で、男性にも特有の苦悩があります。「強くあらねばならない」という思い込みから弱音を吐けず、心身をすり減らしたり孤立を感じたりするケースが少なくありません。

男女共同参画の視点とは、単に男性と女性の違いを意識するだけではなく、一人ひとりの価値観やニーズを尊重する考え方です。多様な視点を災害対応に取り入れることで、避難所や支援の場が全ての人にとって、より過ごしやすいものになります。また、復興の過程でも一人ひとりがそれぞれの力を生かし、役割を果たせるような仕組みづくりにつながります。

災害時こそ多様な声に耳を傾け、みんなが安心して暮らせる環境を目指すことが大切です。まずは身近な誰かの「困りごと」を想像してみましょう。一人ひとりの小さな気付きや思いやりが、大きな力になります。

小さな一歩が大きなアクションに
今日から始めよう SDGs

政策推進課（内線514）

飢餓をゼロに



世界では、約7億人もの人々が十分な食料を得られず、深刻な飢餓に苦しんでいます。SDGsの目標2「飢餓をゼロに」は、世界中の誰もが栄養のある食料を、持続可能な形で手に入られる社会を目指しています。

飢餓ゼロを使命として活動する世界最大の人道支援組織「WFP(世界食糧計画)」をご存じでしょうか。WFPの活動の一つに、レッドカップキャンペーンがあります。レッドカップマークが付いた商品を購入することで、売り上げの一部が企業から寄付され、開発途上国の学校給食の支援に活用される、個人でも参加しやすい取り組みです。

日々の買い物が、世界の誰かの笑顔と豊かな未来へつながっています。まずは身近な選択から、世界を変えるアクションを始めてみませんか。

レッドカップマークが付いた商品は何かがあるかな。



土岐商写真部×広報とき 土岐の写真を撮り隊

Vol. 35 「始まりの季節」



だんだんと暖かくなってくる時期になりました。

やわらかな春の日差しを受けて、アーモンドの花が見頃を迎えています。まだ肌寒さの残る季節の中にも、

春の訪れを感じさせるひとときです。

撮影班：二年生 東山紗和・松田琉愛

(3月18日撮影)